

授業科目名 (英文名)	経済史 (経済学部・専門教育科目) (Economic History)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	齋藤 翔太郎	所属	経済学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>経済史 (economic history) とは文字通り経済の歴史であり、資本主義や市場経済といった現在の経済のあり方がどのようにして出来上がったのか、また前近代から現代まで経済がどのようにして成長してきたのかを考える学問である。ただし、広く捉えれば、経済における様々な行為・意識・関係・規範・制度、そもそも「人間」のあり方自体が考えるべき対象となる。そこで、この講義では、経済が歴史的に成長してきた前提として、まず「人間」は野生動物と異なり「際限のない欲望」の備わった特殊な動物であるという仮定を置くことから始める。それを踏まえ、歴史的な視点から現在の経済がどのような性格を持っているのかについて考えたい。</p> <p>この講義は、経済史の基礎的な概念と方法を学ぶことを目的とし、私たちが生きている経済社会の歴史的な形成と展開について自分の頭で考察し、他者に対して説明できるようにすることを目標とする。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 この講義では基本的な論点として3つの問い、a「経済はなぜ成長するのか」、b「人類はいかにして生存してきたのか」、c「経済はいかに成長してきたのか」について議論する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 経済史とは何か 3. 経済成長と際限のない欲望 4. 欲望充足の効率性と両義性：支配と自由 5. 小括(1) 6. 前近代と近現代 7. 共同体と生産様式 8. 前近代社会の持続可能性と停滞 9. 前近代の市場，貨幣，資本 10. 小括(2) 11. 前近代から近代への移行 12. 市場経済と資本主義 13. 近世の市場と経済活動 14. 近世の経済と国家 15. 近世の経済規範 16. 経済発展の型 17. 小括(3) 18. 産業革命 19. 資本主義の経済制度 20. 国家と経済 21. 自然と経済 22. 家と経済 23. 資本主義の世界体制 24. 小括(4) 25. 近代と現代 26. 第一のグローバル経済と第一次世界大戦：繁栄の中の苦難 27. 第一次世界大戦とその後の経済 28. 第二次世界大戦とその後の経済 29. 第二のグローバル化の時代 30. 総括 		
テキスト	<p>小野塚知二『経済史：いまを知り、未来を生きるために』有斐閣，2018年。【所蔵有】</p>		

	購入は求めないが、読んでいることを前提として授業を進める。
参考文献	<p>中村勝己『世界経済史』講談社（講談社学術文庫），1994年． 楠井敏朗・馬場哲・諸田實・山本通『エレメンタル西洋経済史』英創社，1995年． 馬場哲・小野塚知二『西洋経済史学』東京大学出版会，2004年．【所蔵有】 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房，2012年．【所蔵有】</p> <p>そのほかの参考文献は授業中に伝える。</p>
成績評価の基準・方法	<p>経済史の基礎的な概念と方法を理解し、的確に記述することができる者に単位を授与する。</p> <p>講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じてSからCまでの成績を判断する。</p> <p>レポート/小テスト40%、定期試験60%を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する。</p> <p>ただし履修者数に応じて変更する可能性がある。</p>
履修上の注意・履修要件	<p>大学受験で必要とされる程度の世界史・日本史の知識を持っていることが望ましい。</p> <p>私語、飲食、携帯電話・スマホの使用など授業の進行を妨げる行為には厳しく対処する。</p> <p>黒板を使用して授業を進めるので、毎回ノート等を持参して必要に応じてメモをとること。</p> <p>授業中に配布する資料はその授業の時間以外に配布することはしない。</p> <p>授業の予習・復習としてテキストや参考文献の該当部分を読んでおくことが必要になる。</p> <p>卒業年次の学生であっても単位の救済措置は一切とらない。</p>
実践的教育	該当しない。
備考	初回の授業において講義の概要を説明し、履修者数を確認する。履修者数に応じて授業の形式を変更する可能性があるため、履修を検討している者は必ず出席すること。